

健祥会グループ

case 2



最先端のテクノロジーと「心」で、
施設に笑顔と温もりを、
地域に希望と安心を。



事業所データ

所在地：徳島市国府町東高輪字天満 356 番地 1
電話番号：088-642-8118
設立：1979年
従業員数：3,046名（男性 1,008名・女性 2,038名）
事業内容：高齢・障がい福祉、保育、教育、医療

小規模多機能ホーム 健祥会ハーグ

ケアワーカー(介護福祉士)・ネクスト **水主 のり子**さん(勤続 21年)



高校3年生の頃、父が事故で長期入院し、その間、母が一家の生計を支えています。大変な思いをしながら仕事と家事を切り盛りする母の背中を見て、その負担を少しでも軽くしたいと、学校帰りに父の病院へ通い、食事介助や身の回りの世話をしながら帰宅する毎日でした。病院には高齢の患者様が多く、向ましてあげられないまま逝ってしまった祖母が思い出されてばかりいました。いつしか、「祖母にしてあげられなかったことを誰かにしてあげる、そんな職に就きたい」と強く思うようになり、父母のためにも手に職を持ちたくて介護の道に進み、今の自分があります。

これまでの職歴・体験談など

「寄り添う気持ち」と「感謝の気持ち」を忘れず、利用者様の対応に心がけています。日々のケアを通じて、少しずつでも元気になっていく嬉しさを利用者様やご家族と共有し、寄り添うこ

とで家族のような絆が深まります。最期までお看取りをさせていただくことで、一日一日の重み、命の尊さを感じます。これまで、握ってきたたくさん「ありがとう」をいただきました。「寄り添う気持ち」と「感謝の気持ち」を忘れず、現在、現場リーダーとして長年の経験で得た知識・技術を活かし、後進の育成に努めています。

次世代の方々へのメッセージ

現在、医療・福祉分野においても IOT・ICT 技術が目覚ましい勢いで活用され、健祥会グループの施設でも ICT 化が進みました。けれど、どんなに ICT が進んでも、どんなに優秀なロボットが開発されても、介護は人にしか担えない仕事であると、私は誇らしく思っています。先進機器の導入で、介護の負担は軽減されてきています。働きやすくなった環境のもと、介護という「やりがい」にあふれた仕事をしてみませんか？健祥会グループは、誰もがそれぞれの分野で自身の専門性を発揮し、活躍することのできる職場です。



利用者様との大切な時間！



365日 24時間の安心を皆様にご提供いたします！

上からの声 経験年数も知識も豊富。優れた介護技術で、「心と心」のグループの理念に沿って、利用者様ファーストのケアを提供してくれています。現場リーダーとして常に目配り・気配り・心配りを忘れず一生懸命頑張ってくれており、利用者様・職員からの人望も厚く、施設には必要不可欠な人財です。



小規模多機能ホーム 健祥会ハーグ
管理者 瀨山 慎一さん

女性活躍を推進するにあたって、あなたが自身が感じた課題や苦労は？

子育て中の職員への配慮を特に心がけています。例えば子どもが病気で休むときなど、職場や同僚に迷惑をかけているという気持ちにならずに休めるように。また、子育てのために勤務時間に制限を設けざるを得ない職員は、自分のやりたいことが十分にできない、業務内容が限られてしまうなど、向上心とは裏腹に歯がゆい気持ちを抱えながら勤務していますから、そのことも念頭に対応しています。

代表者からの声

健祥会グループ
理事長 中村 太一さん



介護医療の業界でも ICT 化が進んでおり、特にコロナ禍によりその流れが一層加速しました。人口減少による人手不足を補うためであり、介護の質をあげるためでもあります。一方でどんなに技術や設備が進化しても、介護の基本は人と人の心のふれあいであり、ここにこそ仕事のやりがいがあります。女性だけでなくすべての職員が働きやすいよう、笑顔で働けるよう、休暇制度を充実させるとともに、柔軟な働き方の選択肢を提供して、よりよい職場づくりを努めています。

事業所からの声

女性従業員が活躍する取り組みはありますか？

健祥会グループでは、全体のおよそ 70% を占める女性職員のキャリアアップに努めており、管理職に占める女性の割合は約 47% という高い数字を示しています。また、仕事のキャリアばかりでなく人としての成長も大切にするために、教養を育み、心を豊かにし、育ち合い高め合う場、「KIRARI WOMAN ネットワーク」を 2016 年にスタートさせました。メンバーである若手職員が企画したイベントやセミナー、ワークショップなどを実践し、企画する側にとっても、参加する職員にとっても、良き学びの場となっています。今では女性職員だけに留まらず、男性職員にもその輪が広がっています。

女性活躍のための取り組みにより、事業所で起きた変化を教えてください。

「KIRARI WOMAN ネットワーク」は、産休・育休、介護休業中の職員に SNS を通じて様々な情報を提供するとともに、相談窓口としても活用しています。育児に関することや仕事にまつわるトピックなどを届けることで、休暇中に孤立感を味わうことのないように努め、スムーズな職場復帰に役立ててもらっています。SNS の気軽さからか、相談や問い合わせの件数は増加しており、職員と組織の絆(きずな)が深まっています。

今後、より女性が活躍するためのアイデアはありますか？

復帰のためやキャリアアップのための研修を、場所を選ばず、手軽に受けられるオンライン・オンデマンド体制を構築したいと考えています。大事な戦力である女性に仕事と家庭を無理なく両立してもらうために、短時間勤務制度の利用やテレワーク勤務の拡大を図り、より働きやすい環境づくりを進めます。